

米国農務省穀物等需給報告(2015年6月10日発表のポイント)

平成 27 年 6 月 11 日
大臣官房食料安全保障課

米国農務省は、6月10日(現地時間)、2015/16年度の2回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

—2015/16年度の穀物全体の生産量は消費量を下回り、大豆の生産量は消費量を上回る見込み—
※現時点では、北半球で作付作業中、南半球で未だ作付作業が始まっていないため、本報告は極めて暫定的なものである。

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

- ① 生産量: 24億7,930万トン(対前年度比 0.5%減)
- ② 消費量: 24億8,978万トン(対前年度比 0.9%増)
- ③ 期末在庫量: 5億2,118万トン(対前年度比 2.0%減)
期末在庫率: 20.9%(対前年度差 0.6ポイント減)

【主な品目別の動向】

小麦 : 生産量は、米国で冬小麦の生育期終盤の降雨により増加、中国等でも増加するものの、ロシアで2014年秋の乾燥により減少、インド、EU等でも減少することから、世界全体では史上最高の前年度を下回る見込み。また、消費量は、中国等で減少するものの、EU等で増加することから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回り、期末在庫率は前年度より上昇。

- ① 生産量: 7億2,155万トン(対前年度比 0.7%減)・・・中国、米国、豪州等で増加、インド、EU、ロシア等で減少
- ② 消費量: 7億1,956万トン(対前年度比 0.5%増)・・・中国等で減少
- ③ 期末在庫量: 2億240万トン(対前年度比 1.0%増)・・・中国、米国等で増加、インド等で減少
期末在庫率: 28.1%(対前年度差 0.1ポイント増)

とうもろこし : 生産量は、中国、南アフリカ等で増加するものの、米国、ブラジル、EU等で減少することから、世界全体では史上最高の前年度を下回る見込み。また、消費量は、米国で家畜飼養頭数の増加に伴い飼料用需要が増加すること、中国、ブラジル等でも増加することから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を下回り、期末在庫率は前年度より低下。

- ① 生産量: 9億8,930万トン(対前年度比 1.0%減)・・・中国、南アフリカ等で増加、米国、ブラジル、EU等で減少
- ② 消費量: 9億9,112万トン(対前年度比 1.5%増)・・・中国、米国、ブラジル等で増加
- ③ 期末在庫量: 1億9,519万トン(対前年度比 0.9%増)・・・中国等で増加、ブラジル、米国等で減少
期末在庫率: 19.7%(対前年度差 0.5ポイント減)

米(精米) : 生産量は、ブラジルで作付面積の減少が見込まれ減少するものの、インド、中国等で増加することから、世界全体では前年度を上回り史上最高となる見込み。また、消費量も、中国等で増加することから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を下回り、期末在庫率は前年度より低下し、2006/07年度以来最低の水準。

- ① 生産量: 4億8,174万トン(対前年度比 1.2%増)
- ② 消費量: 4億8,899万トン(対前年度比 0.9%増)・・・中国等で増加
- ③ 期末在庫量: 9,144万トン(対前年度比 7.3%減)・・・インド、タイ等で減少
期末在庫率: 18.7%(対前年度差 1.7ポイント減)

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

生産量は、ブラジルで収穫面積の増加が見込まれ増加するものの、米国、アルゼンチン等で減少することから、世界全体では史上最高の前年度を下回る見込み。また、消費量は、中国、アルゼンチン等で増加することから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回り、期末在庫率は前年度より上昇。

- ① 生産量: 3億1,758万トン(対前年度比 0.2%減)・・・ブラジル等で増加、米国、アルゼンチン等で減少
- ② 消費量: 3億564万トン(対前年度比 4.0%増)・・・中国、アルゼンチン等で増加
- ③ 期末在庫量: 9,322万トン(対前年度比 11.4%増)・・・ブラジル、米国等で増加
期末在庫率: 30.5%(対前年度差 2.0ポイント増)

(参考1)

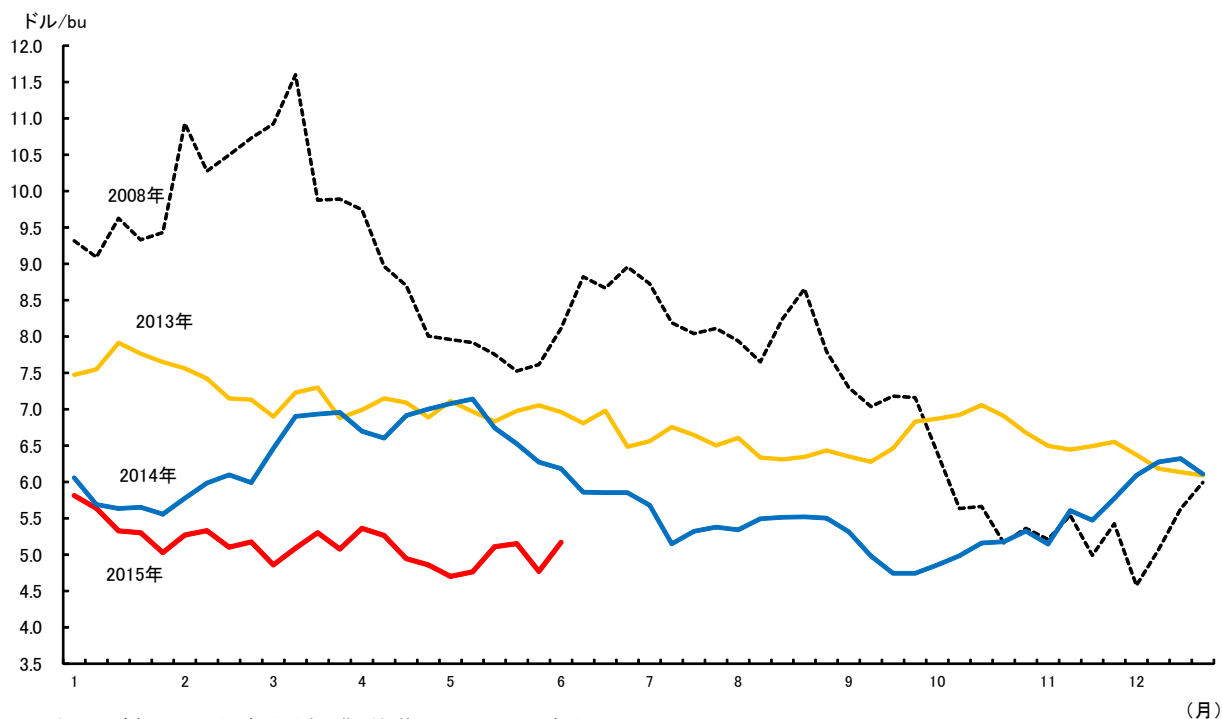
平成27年6月11日
大臣官房食料安全保障課

世界の穀物の価格動向(2015年)

- 小麦:5.17ドル/bu(前年同時期の価格:6.18ドル/bu)
(価格は、シカゴ商品取引所における6月第1週末の期近価格。)

2014年2月以降、米国大平原南部の寒波による凍害や乾燥型の天候による冬小麦の作柄悪化懸念、ウクライナ情勢悪化による同国の供給減少懸念から7ドル/bu台前半まで値を上げたものの、5月以降、世界在庫が潤沢であること、更に6月中旬以降は、割高な米国産の輸出需要が弱含みであること及び米国産冬小麦の順調な収穫進展等から値を下げ、一時、5ドル/buを割り込んだ。10月以降、大豆/大豆粕価格の上昇への追随や、米国、黒海沿岸地域での寒波による冬小麦の生育懸念やロシアの輸出規制導入懸念等から6ドル/bu台前半まで値を上げた。

2015年1月以降、世界的に潤沢な在庫・供給量が改めて確認される中、米ドル高の進展による米国産の割高感、米国大平原での降雨・降雪による土壌水分量の上昇、4月以降の米国春小麦の作付進展等から値を下げたものの、5月以降、米国冬小麦の低温・多雨による作柄悪化懸念等から値を上げ、現在は5ドル/bu前後で推移。



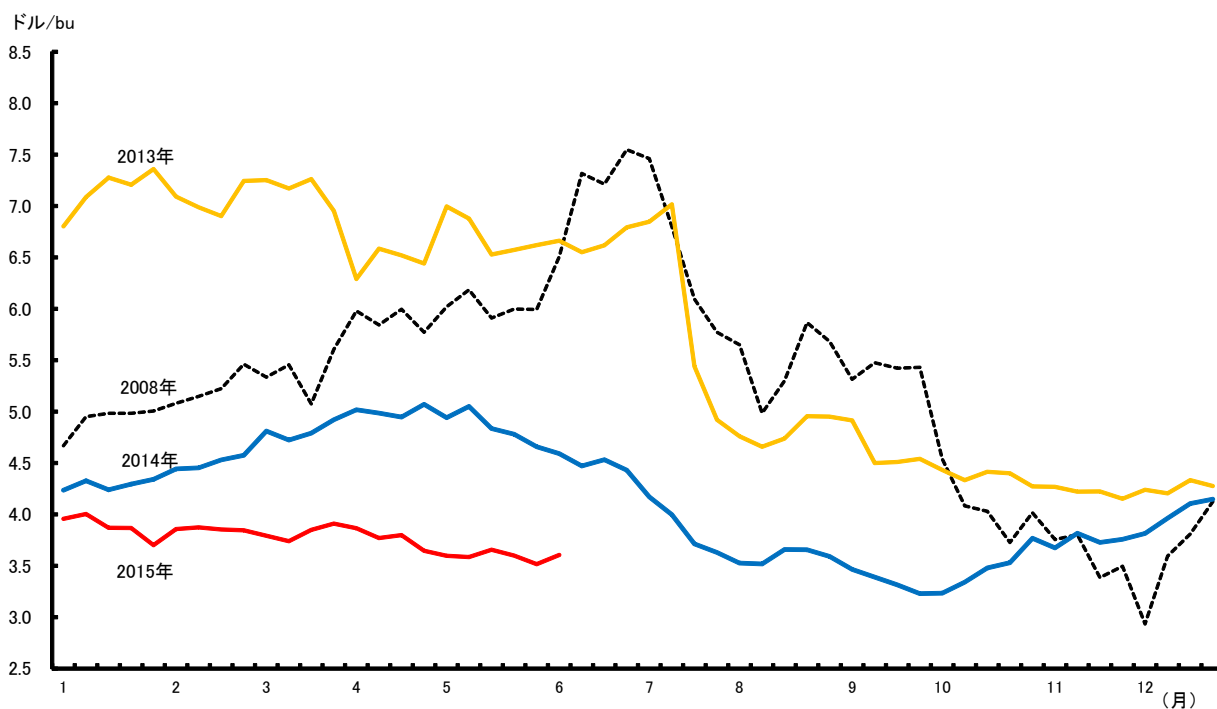
注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移。

(月)

● とうもろこし: 3.61ドル/bu (前年同時期の価格: 4.59ドル/bu)
 (価格は、シカゴ商品取引所における6月第1週末の期近価格。)

2014年1月半ば以降、堅調な輸出需要や2月下旬のウクライナ情勢悪化による同国の供給減少懸念に加え、米国コーンベルト北部での低温多雨による作付遅延懸念等から5ドル/bu前後に上昇した。5月以降、米国で生育に適した天候に恵まれたことから、3ドル/bu台前半まで値を下げたものの、10月以降、大豆/大豆粕価格の上昇等に追随して4ドル台/bu台前半まで値を戻した。

2015年1月以降、南米の豊作見込みや、4月以降の米国の作付進展等から値を下げ、現在は3ドル/bu台半ばで推移。

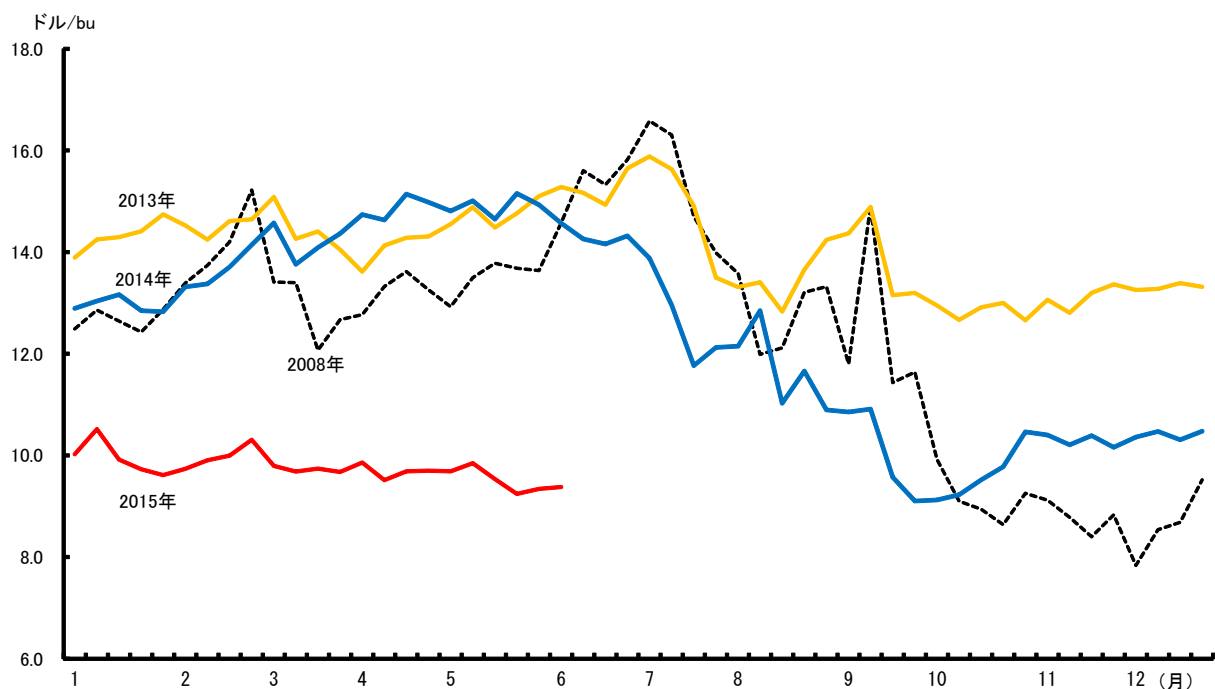


注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
 グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移

● 大豆: 9.38ドル/bu(前年同時期の価格: 14.57ドル/bu)
 (価格は、シカゴ商品取引所における6月第1週末の期近価格。)

2014年2月以降、米国の堅調な輸出需要に伴う需給の引き締めやブラジルの高温・乾燥による作柄懸念から15ドル台前半まで値を上げたものの、5月中旬以降、米国で生育に適した天候に恵まれたことから9ドル台前半まで値を下げた。10月以降、大豆粕価格の上昇に伴って10ドル台前半まで値を戻した。

2015年1月以降、南米の豊作見込み等から値を下げた後、2月中旬から3月初旬のブラジルでのトラック運転手によるストライキを受けて一旦値を戻したものの、5月中旬以降、米国の作付進展等から値を下げ、現在は9ドル/bu台前半で推移。

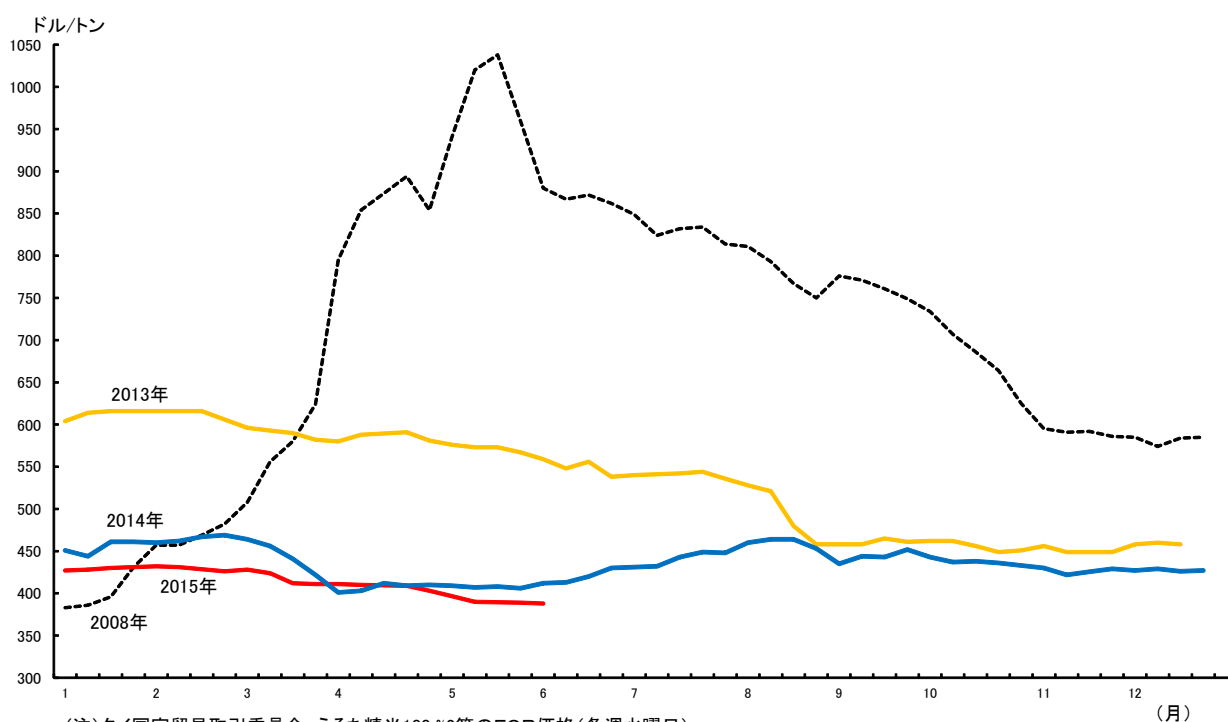


注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
 グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移。

● 米：388ドル/トン（前年同時期の価格：412ドル/トン）
 （価格は、タイ国家貿易取引委員会における6月第1水曜日のFOB価格。）

2014年3月以降、タイにおける更なる政府在庫の放出により値を下げたものの、5月末から8月末まで、タイが政府在庫の数量や品質を検査するために一時放出を停止したことにより8月には460ドル/トン台まで値を戻した。その後、積み上がった政府在庫を減少させるため、積極的に輸出を行ったことから、420ドル/トン台まで値を下げた。

2015年1月以降も、引き続きタイの政府在庫放出から値を下げ、現在は380ドル/トン台後半で推移。



（注）タイ国家貿易取引委員会、うるち精米100%2等のFOB価格（各週水曜日）
 グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格推移。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年1月	2月
113.26	116.89	114.35	100.64	92.85	85.71	79.05	82.89	100.16	103.94	102.13
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	27年1月
102.27	102.56	101.79	102.05	101.72	102.96	107.09	108.06	116.22	119.40	118.24
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
118.57	120.39	119.55	120.74							

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>
年度別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年1月	2月
49.38	41.16	78.91	93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	53.75	50.25
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	27年1月
48.25	45.60	44.25	42.00	40.00	40.75	44.00	43.00	40.75	39.60	34.25
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
26.25	29.00	29.75	28.25							

出典：米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC Grain Market Indicators」
月別は、週別価格の平均値。

3 原油価格(WTI: 米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年1月	2月
56.56	66.21	72.34	99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	94.86	100.68
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	27年1月
100.51	102.03	101.79	105.15	102.39	96.08	93.03	84.34	75.81	59.29	47.33
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
50.72	47.85	54.63	59.00							

出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」平成27年5月, 127頁
但し、27年5月は、「U.S.Energy Information Administration」の5月29日までの週別価格の平均値。